

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校は、宮古市の北部に位置し、知的障がい、肢体不自由を対象とした特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の3学部が設置されており、医療的ケア対象の児童生徒も在籍している。また、6割の児童生徒がスクールバスを利用して登下校しており、その中には岩泉町や山田町からスクールバス停留所がある宮古駅まで交通公共機関を利用して通学している生徒もいる。

本校では、隣接する岩手県沿岸知的障害児施設組合はまゆり学園、知的障害者入所更生施設わかたけ学園と三施設相互協力協定を結び、災害時の対処について物的・人的資源の共有、合同避難訓練を行っている。

本事業の実践を通して、児童生徒の実態や発達状況に応じて防災教育・復興教育に関わる学習活動に取り組み、生命の大切さ、心身の健康や地域づくり、防災や安全についての意識の向上と主体的に行動する態度の育成を図ることを目的として、以下の項目を目標として設定した。

- (1) 自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもち、つらく厳しい状況にあっても希望をもって生きることの大切さを実感し、周囲の環境を理解しながら自分自身で心身の健康を維持しようとする児童生徒を育てる。【いきる】
- (2) 地域行事への参加、近隣の学校との交流や宮古の特色を活かした作業製品の製作、地域での販売活動等に積極的に関わることで人々とのつながりや絆を感じ、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々への感謝の気持ちを実感できるよう活動計画を立てる。また、地域の伝統行事、郷土芸能に意欲的に取り組むことで自己肯定感を育むとともに主体的に地域づくりに関わる態度を育てる。【かかわる】
- (3) 年間を通して、防災頭巾の携行や地震、火事等を想定した避難訓練、安心・安全な街づくりや危機回避について学ぶ校外学習等に取り組み、今後起こりうる様々な災害や事故等の非常事態に対応できる力を育てる。特に本校は山間地に立地しており、学校周辺の通学路には土砂災害の危険箇所が多数存在する。大雨・大雪等による土砂災

害発生時は、通学路が寸断される危険性もあるため、引き渡し訓練や学校が孤立した場面を想定した訓練を実施することにより、非常時の対応を学び、知識、技能の向上を図る。【そなえる】

II 取組の概要

1 全校での取り組み

(1) 避難訓練（年3回）

ア ねらい

地震や火災等を想定し、避難経路を通り安全に避難することができる。

イ 内容

1回目：地震・避難経路の確認

2回目：地震・三施設合同・煙体験



3回目：火災・予告なし

2月12日（水）実施

(2) 防災体験学習

ア ねらい

全校で防災学習に取り組み、様々な体験を通して仲間との協力や非常時に対応できる力を身に付ける。

イ 内容

(ア) マジックライスや缶詰等の非常食を食べる経験をする。

(イ) バケツリレーや非常食準備などを通し、仲間と協力したり、助け合ったりすることの大切さに気付く。



2 各学部での取組

(1) 小学部 4・5年 校外での防災・復興教育

ア ねらい

身近な地域での様々な経験を通し、地域のよさや生命の尊さに気が付き、大切にしようとする気持ちを育てる。

イ 内容

- (ア) 三陸鉄道の乗車や被災地域の再建の様子を見聞かす。
- (イ) 山田町マップづくりを通して、自分たちの住む地域について考える。



(2) 中学部 校外での防災・復興教育

ア ねらい

震災や台風被害からの復興状況や地域の活性化について学ぶ。

イ 内容

- (ア) 龍泉洞や岩泉乳業を見学し、復興について理解する。
- (イ) 調べ学習やインタビュー活動を行い、学習を深める。



(3) 高等部 奉仕活動

ア ねらい

地域の一員として地域貢献の良さを感じながら、清掃活動や環境美化活動に積極的に取り組み、地域との関わりを広げる。

イ 内容

- (ア) プランターに花植えを行い、宮古駅・千徳公民館・宮古カントリークラブに設置する。
- (イ) 宮古駅周辺、浄土ヶ浜のゴミ拾いを行う。



III 取組の成果と課題

1 取組における成果

- (1) 小学部・中学部・高等部の各学部において校外での防災と復興に関わる学習や活動を行い、地域の復興再建の状況を知るとともに、防災・安全な生活や行動について再確認し、非常時に生き抜く知識と技能を身につけることの大切さを感じることができた。また、地域行事への参加や三陸鉄道の利用等を通し、身近な地域の取り組みや人々の努力等に触れることができた。
- (2) 全校で取り組んだ防災体験学習では、非常食の試食とバケツリレーを異年齢集団の縦割り班で活動を行った。班の仲間と一緒にマジックライスを作ったり、自然と相手を思いやり、安心して過ごせるような声掛けや心配りが見られたりした。
- (3) 今年度初めて、三施設相互協力協定を結んでいる近隣二施設との合同避難訓練を行った。事前の打ち合わせを重ね、当日の内容や動き方について確認する中で、災害への備えや非常時の避難場所、周辺の危険箇所等も併せて情報共有することができた。次年度も合同避難訓練を実施する予定である。

2 今後の課題

- (1) 今後の防災教育においては、児童生徒が復興や防災について主体的に考え、体験し、知識や技能の必要性を実感できるように様々な活動や校外学習等を計画的に取り組んでいきたい。また、身近なコミュニティである全校活動も大切にしていきたい。
- (2) 昨年10月、台風19号の記録的な大雨による土砂流出や道路の寸断により通学路の安全が確保できず、休校措置となった。災害対策や安全の保障等、被災を教訓とし、災害対策のための危機管理体制の再構築・再確認等整備を図っていきたい。また、非常時における迅速で的確な判断力を教職員研修や日々の中での意識向上を図りたい。
- (3) 次年度は、さらに保護者、地域や近隣の施設との連携を密にし、安心・安全な学校運営についての意見交換や情報共有を行い、本校の特色、児童生徒のニーズに合わせた復興教育を進めていきたい。